

【 復活のトロパリ 第3調 】

てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの  
 天在者 樂 地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら  
 悦 主 其 臂 力 顯

わして、しをもってしをほろぼし、ふ復  
 死 以 死 滅

くかつのはじめとなり、われらをぢごく  
 活 首 我 等 地 獄

のはらよりすくい、せかいにおおいな  
 腹 救 世 界 大

るあわれみをたまいたればなり。  
 憐 賜

【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう  
 使徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい  
 實 神 智 役 者 聖

なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい  
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 満 器 我 國 光

しよ うしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照 者 亜使徒主教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのた め、および  
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいのた めに、いのちを たも う せい  
 全世界 爲 生 命 賜 聖

さんしゃにいのり たま え。  
 三者 祈 給

【 日本の亜使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こう え い は ち ち と こ 子 と せいしんに き  
 光 榮 父 子 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコラ イよ、わが  
 成 聖 者 亞 使 徒 聖 我

くになんぢをたびびと およびいほうじんと うけ  
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの  
 爾 初 我 國 於 己

れをがいらいしゃとしりた れども、ハリストスの  
 外 來 者 知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて  
 光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのこと な し、かれらにか  
 屬 神 子 爲 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて  
 恩寵 與 教 會 建  
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今 此 教 會 爲 祈  
 たまえ、けだしわれらそのしよしはなん  
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾  
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼 我 善 牧 者 慶  
 べよ。

【 復活のコンダク 第3調 】

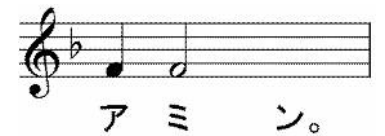
いまもいつもよよに、アミン。  
 今 何 時 世 世  
 じれんなるしゆよ、なんぢはいまはかよりふ復  
 慈 憐 主 爾 今 墓 復  
 くかつして、われらをしのもんよりのぼせ  
 活 我 等 死 門 升  
 たまえり。いまアダムはたのしみ、  
 給 今 樂  
 エヴァはよろこび、しよげんしゃはれつそとと借  
 歡 諸 預 言 者 列 祖 借  
 もにたえずなんぢのけんぺいのしんせい  
 絶 爾 權 柄 神 聖



なるのうりょくをほめうと  
能力讃歌う。

司祭) ( 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、  
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と  
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、  
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行おう者を棄てずして、其救の爲に痛悔  
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な  
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と  
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を  
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と  
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生  
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世  
に、



アミン。

【 聖三祝文 】



せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
聖神聖勇毅聖  
じょうせいのものよ、われらをあわれめ  
常生者我等憐  
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
聖神聖勇毅聖

なるじょうせいのもものよ、われらをあわれ  
 常 生 者 我 等 憐  
 めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖 神 聖 勇 毅  
 せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐  
 れめよ。こうえいはちちとこせいしん  
 光 榮 父 子 聖 神  
 にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸 今 何 時 世 世  
 せいなるじょうせいのもものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐  
 れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇  
 き毅、せいなるじょうせいのもものよ、われらを  
 聖 常 生 者 我 等 憐  
 あわれめよ。  
 憐

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、 )

プロキメン  
 【 提綱 主日第3調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、



われ め かみ よろこ そのこ わ うち あらわ われ これ いほうじん ふくいん  
 我を召しし神が、悦びて、其子を我が内に顯し、我をして之を異邦人に福音せしめ  
 とき われただち けつにく あいはか また のぼ われ さき しと な  
 んとせし時、我直に血肉と相談せず、亦イエルサリムに上りて我より先に使徒と爲り  
 もの み すなわち ゆ のちまた かえ つ さんねん こ  
 し者を見ず、乃アラヴィヤに往き、後亦ダマスクに返れり。嗣ぎて三年を越えて、ペト  
 み ため のぼ じゅうごにちかんかれ とも い た しと しゅ けいてい  
 ルを見ん爲にイエルサリムに上り、十五日間彼と偕に居たり。他の使徒は、主の兄弟イ  
 ほか だれ み  
 アコフの外、誰をも見ざりき。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あなたがたに、はっきり言うておく。わたしが宣べ伝えた福音は人間によるものではない。わたしは、それを人間から受けたのでも教えられたのでもなく、ただイエス・キリストの啓示によったのである。ユダヤ教を信じていたころのわたしの行動については、あなたがたはすでによく聞いている。すなわち、わたしは激しく神の教会を迫害し、また荒しまわっていた。そして、同国人の中でわたしと同年輩の多くの者にまさってユダヤ教に精進し、先祖たちの言伝えに対して、だれよりもはるかに熱心であった。ところが、母の胎内にある時からわたしを聖別し、み恵みをもってわたしをお召しになったかたが、異邦人の間に宣べ伝えさせるために、御子をわたしの内に啓示して下さった時、わたしは直ちに、血肉に相談もせず、また先輩の使徒たちに会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出て行った。それから再びダマスコに帰った。その後三年たってから、わたしはケパをたずねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間、滞在した。しかし、主の兄弟ヤコブ以外には、ほかのどの使徒にも会わなかった。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 主日第3調 】

司祭) なんぢ へいあん  
 爾に平安、

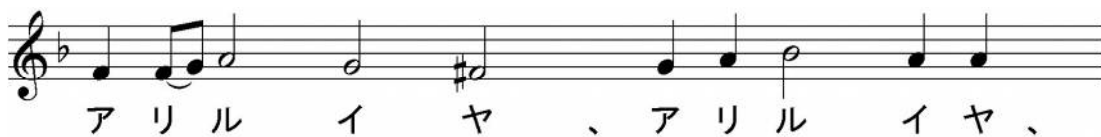
誦經) なんぢ しん  
 爾の神にも、

司祭) えいち  
 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) しゅ われなんぢ たの ねが われよよ はぢ え  
 主よ、我爾を恃む、願わくは我世世に羞を得ざらん、



ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

誦經) 我が爲に堅固なる避所となりて、我に常に隠るるを得しめ給え、



ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、



ア リ ル イ ヤ 。

司祭) ( 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

めひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ  
の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よるこ ところ  
畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ  
を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん  
爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ  
て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世々に、アミン。 )

【 エヴァンゲリオン 福音經 ルカ福音書38端 8章26~39節 】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



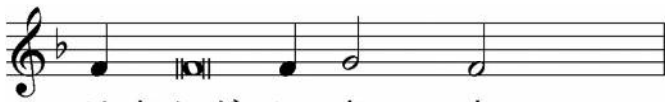
なんぢのしんにも。  
爾神

司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮





は なんぢ に き す 。  
 爾 歸

司祭) <sup>つつし</sup> 謹 <sup>みて</sup> 聴くべし、<sup>か</sup> 彼の <sup>とき</sup> 時 <sup>むか</sup> イイススが <sup>ガリラヤ</sup> ガリラヤに <sup>か</sup> 對 <sup>える</sup> える <sup>ガダラの地</sup> ガダラの地に <sup>ち</sup> 來 <sup>りて</sup> りて、<sup>かれ</sup> 彼 <sup>が</sup> が <sup>きし</sup> 岸 <sup>の</sup> ぼに <sup>のぼ</sup> 登

<sup>とき</sup> りし <sup>まち</sup> 時、<sup>ひとり</sup> 邑 <sup>もの</sup> の <sup>かれ</sup> 一人 <sup>むか</sup> の <sup>者</sup> 者 <sup>むか</sup> 彼 <sup>を</sup> を <sup>むか</sup> 迎 <sup>えたり</sup> えたり、<sup>すなわち</sup> 乃 <sup>ひさ</sup> 久 <sup>まき</sup> しく <sup>よ</sup> 魔鬼 <sup>に</sup> に <sup>よ</sup> 憑 <sup>られ</sup> られ、<sup>ころも</sup> 衣 <sup>を</sup> を <sup>き</sup> 衣 <sup>い</sup> えず、<sup>いえ</sup> 家 <sup>す</sup> に <sup>す</sup> 住 <sup>ま</sup> ず <sup>す</sup> して、<sup>はか</sup> 墓 <sup>す</sup> に <sup>もの</sup> 住 <sup>こ</sup> め <sup>ひと</sup> る <sup>者</sup> 者 <sup>なり</sup> なり。此 <sup>の</sup> の <sup>人</sup> 人 <sup>イイスス</sup> イイスス <sup>を</sup> を <sup>見</sup> 見 <sup>て</sup> て <sup>號</sup> 號 <sup>び</sup> び、<sup>かれ</sup> 彼の <sup>ま</sup> 前 <sup>え</sup> 前に <sup>ふ</sup> 俯 <sup>伏</sup> 伏 <sup>し</sup> し、<sup>おおい</sup> 大 <sup>なる</sup> なる <sup>こえ</sup> 聲 <sup>を</sup> を <sup>い</sup> 以 <sup>て</sup> て <sup>い</sup> 曰 <sup>えり</sup> えり、<sup>しじょう</sup> 至 <sup>かみ</sup> 上 <sup>こ</sup> なる <sup>神</sup> 神 <sup>の子</sup> の <sup>子</sup> 子 <sup>イイスス</sup> イイスス <sup>よ</sup> よ、<sup>われ</sup> 我 <sup>なんぢ</sup> と <sup>なん</sup> 爾 <sup>あづか</sup> と <sup>なんぢ</sup> 何 <sup>ぞ</sup> ぞ <sup>ら</sup> ら <sup>ん</sup> ん、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>もと</sup> に <sup>われ</sup> 求 <sup>くる</sup> む、<sup>われ</sup> 我 <sup>を</sup> を <sup>苦し</sup> 苦し <sup>む</sup> む <sup>る</sup> る <sup>な</sup> 勿 <sup>れ</sup> れ。蓋 <sup>イイススは</sup> イイススは <sup>汚鬼</sup> 汚鬼 <sup>に</sup> に <sup>此</sup> 此 <sup>の</sup> の <sup>人</sup> 人 <sup>より</sup> より <sup>出</sup> 出 <sup>づる</sup> る <sup>を</sup> を <sup>命</sup> 命 <sup>じたり</sup> じたり、<sup>其</sup> 其 <sup>かれ</sup> 彼 <sup>を</sup> を <sup>拘</sup> 拘 <sup>えし</sup> し <sup>こと</sup> こと <sup>久</sup> 久 <sup>しけれ</sup> けれ <sup>ば</sup> ば <sup>なり</sup> なり。彼 <sup>を</sup> を <sup>守</sup> 守 <sup>りて</sup> て、<sup>くさり</sup> 鐵 <sup>かせ</sup> 索 <sup>つな</sup> と <sup>つな</sup> 桎 <sup>か</sup> 梏 <sup>た</sup> と <sup>に</sup> に <sup>繋</sup> 繋 <sup>ぎ</sup> ぎ <sup>た</sup> た <sup>れ</sup> れ <sup>ども</sup> も、<sup>かれ</sup> 彼 <sup>繋</sup> 繋 <sup>を</sup> を <sup>断</sup> 断 <sup>ちて</sup> て、<sup>まき</sup> 魔 <sup>ため</sup> 鬼 <sup>の</sup> の <sup>爲</sup> 爲 <sup>に</sup> に <sup>野</sup> 野 <sup>に</sup> に <sup>逐</sup> 逐 <sup>わ</sup> わ <sup>れ</sup> れ <sup>たり</sup> たり。イイスス <sup>かれ</sup> 彼 <sup>に</sup> に <sup>問</sup> 問 <sup>いて</sup> て <sup>曰</sup> 曰 <sup>えり</sup> えり、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>な</sup> の <sup>な</sup> 名 <sup>は</sup> は <sup>何</sup> 何 <sup>ぞ</sup> ぞ、<sup>かれ</sup> 彼 <sup>曰</sup> 曰 <sup>えり</sup> えり、<sup>レゲオン</sup> 大 <sup>おお</sup> 隊 <sup>まき</sup> 、<sup>かれ</sup> 多 <sup>い</sup> くの <sup>魔</sup> 魔 <sup>鬼</sup> 鬼 <sup>かれ</sup> 彼 <sup>に</sup> に <sup>入</sup> 入 <sup>り</sup> り <sup>た</sup> た <sup>ら</sup> ら <sup>ば</sup> ば <sup>なり</sup> なり。魔 <sup>鬼</sup> 鬼 <sup>は</sup> は <sup>イイスス</sup> イイスス <sup>に</sup> に、<sup>かれら</sup> 彼 <sup>等</sup> 等 <sup>に</sup> に <sup>淵</sup> 淵 <sup>に</sup> に <sup>往</sup> 往 <sup>く</sup> く <sup>を</sup> を <sup>命</sup> 命 <sup>ぜ</sup> ぜ <sup>ざ</sup> ざ <sup>ら</sup> ら <sup>ん</sup> ん <sup>こと</sup> こと <sup>を</sup> を <sup>求</sup> 求 <sup>め</sup> め <sup>たり</sup> たり。彼 <sup>處</sup> 處 <sup>に</sup> に <sup>か</sup> 豕 <sup>の</sup> の <sup>お</sup> お <sup>お</sup> 大 <sup>むれ</sup> 群 <sup>やま</sup> の <sup>か</sup> 山 <sup>に</sup> に <sup>牧</sup> 牧 <sup>わ</sup> わ <sup>れた</sup> れ <sup>る</sup> る <sup>あり</sup> あり、<sup>まき</sup> 魔 <sup>かれ</sup> 鬼 <sup>は</sup> は <sup>かれ</sup> 彼 <sup>に</sup> に、<sup>その</sup> 其 <sup>なか</sup> 中 <sup>い</sup> に <sup>ゆる</sup> 入 <sup>る</sup> る <sup>を</sup> を <sup>許</sup> 許 <sup>さん</sup> さん <sup>こと</sup> こと <sup>を</sup> を <sup>求</sup> 求 <sup>め</sup> め <sup>た</sup> た <sup>ら</sup> ら <sup>ば</sup> ば <sup>かれ</sup> 彼 <sup>之</sup> 之 <sup>を</sup> を <sup>ゆる</sup> 許 <sup>せり</sup> せり。魔 <sup>鬼</sup> 鬼 <sup>人</sup> 人 <sup>より</sup> より <sup>出</sup> 出 <sup>で</sup> て、<sup>むれ</sup> 豕 <sup>が</sup> け <sup>み</sup> 群 <sup>は</sup> は <sup>山</sup> 山 <sup>坡</sup> 坡 <sup>より</sup> より <sup>湖</sup> 湖 <sup>に</sup> に <sup>逸</sup> 逸 <sup>けて</sup> て <sup>溺</sup> 溺 <sup>れ</sup> れ <sup>たり</sup> たり。牧 <sup>う</sup> う <sup>者</sup> 者 <sup>有</sup> 有 <sup>り</sup> り <sup>し</sup> し <sup>事</sup> 事 <sup>を</sup> を <sup>觀</sup> 觀 <sup>て</sup> て、<sup>はし</sup> 奔 <sup>り</sup> り <sup>往</sup> 往 <sup>きて</sup> て、<sup>まち</sup> 邑 <sup>およ</sup> 及 <sup>むら</sup> び <sup>むら</sup> 諸 <sup>つ</sup> 村 <sup>に</sup> に <sup>告</sup> 告 <sup>げ</sup> げ <sup>た</sup> た <sup>ら</sup> ら <sup>ば</sup> ば、<sup>ひと</sup> 人 <sup>びと</sup> 有 <sup>あ</sup> り <sup>し</sup> し <sup>所</sup> 所 <sup>を</sup> を <sup>觀</sup> 觀 <sup>ん</sup> ん <sup>爲</sup> 爲 <sup>に</sup> に <sup>出</sup> 出 <sup>で</sup> て、<sup>きた</sup> イイスス <sup>まき</sup> に <sup>い</sup> 來 <sup>りて</sup> て、<sup>ひと</sup> 魔 <sup>ころも</sup> 鬼 <sup>き</sup> の <sup>こ</sup> 出 <sup>ころ</sup> で <sup>た</sup> た <sup>る</sup> る <sup>人</sup> 人 <sup>が</sup> が <sup>衣</sup> 衣 <sup>を</sup> を <sup>着</sup> 着 <sup>、</sup> <sup>こころ</sup> 心 <sup>た</sup> た <sup>しか</sup> 慥 <sup>にして</sup> して、<sup>そく</sup> イイススの <sup>か</sup> 足 <sup>か</sup> 下 <sup>に</sup> に <sup>坐</sup> 坐 <sup>せる</sup> せる <sup>を</sup> を <sup>見</sup> 見 <sup>て</sup> て、<sup>おそ</sup> 懼 <sup>れ</sup> れ <sup>たり</sup> たり。見 <sup>し</sup> し <sup>者</sup> 者 <sup>は</sup> は <sup>魔</sup> 魔 <sup>鬼</sup> 鬼 <sup>に</sup> に <sup>憑</sup> 憑 <sup>ら</sup> ら <sup>れた</sup> れ <sup>る</sup> る <sup>人</sup> 人 <sup>の</sup> の <sup>如</sup> 如 <sup>何</sup> 何 <sup>に</sup> に <sup>愈</sup> 愈 <sup>され</sup> され <sup>し</sup> し <sup>を</sup> を <sup>告</sup> 告 <sup>げ</sup> げ <sup>た</sup> た <sup>ら</sup> ら <sup>ば</sup> ば、<sup>ち</sup> ガダラ <sup>ほう</sup> 地方 <sup>の</sup> の <sup>民</sup> 民 <sup>は</sup> は、<sup>た</sup> 皆 <sup>みな</sup> <sup>かれら</sup> イイスス <sup>は</sup> は <sup>な</sup> 彼 <sup>を</sup> を <sup>離</sup> 離 <sup>れ</sup> れ <sup>ん</sup> ん <sup>こと</sup> こと <sup>を</sup> を <sup>請</sup> 請 <sup>えり</sup> り、<sup>おおい</sup> 大 <sup>おそ</sup> に <sup>ゆえ</sup> 懼 <sup>れ</sup> れ <sup>し</sup> し <sup>故</sup> 故 <sup>なり</sup> なり。彼 <sup>か</sup> 舟 <sup>ふね</sup> に <sup>のぼ</sup> 登 <sup>りて</sup> て <sup>かえ</sup> 返 <sup>れり</sup> り。魔 <sup>まき</sup> 鬼 <sup>い</sup> の <sup>出</sup> 出 <sup>で</sup> て <sup>た</sup> た <sup>る</sup> る <sup>人</sup> 人 <sup>は</sup> は <sup>かれ</sup> 彼 <sup>と</sup> と <sup>偕</sup> 偕 <sup>に</sup> に <sup>居</sup> 居 <sup>らん</sup> ん <sup>こと</sup> こと <sup>を</sup> を <sup>求</sup> 求 <sup>め</sup> め <sup>た</sup> た <sup>れ</sup> れ <sup>ども</sup> も、<sup>い</sup> イイスス <sup>これ</sup> 之 <sup>を</sup> を <sup>去</sup> 去 <sup>ら</sup> ら <sup>し</sup> し <sup>め</sup> め <sup>て</sup> て <sup>い</sup> 曰 <sup>え</sup> り。爾 <sup>なんぢ</sup> の <sup>いえ</sup> 家 <sup>かえ</sup> に <sup>かみ</sup> 歸 <sup>りて</sup> て、<sup>いか</sup> 神 <sup>こと</sup> が <sup>おこ</sup> 如何 <sup>な</sup> なる <sup>事</sup> 事 <sup>を</sup> を <sup>行</sup> 行 <sup>い</sup> し <sup>を</sup> を <sup>告</sup> 告 <sup>げ</sup> げ <sup>よ</sup> よ。彼 <sup>かれ</sup> 往 <sup>ゆ</sup> きて、<sup>ぜん</sup> 全 <sup>ゆう</sup> 邑 <sup>に</sup> に <sup>イイスス</sup> イイスス <sup>が</sup> が <sup>かれ</sup> 彼 <sup>に</sup> に <sup>如</sup> 如何 <sup>なる</sup> なる <sup>事</sup> 事 <sup>を</sup> を <sup>行</sup> 行 <sup>い</sup> し <sup>を</sup> を <sup>宣</sup> 宣 <sup>べ</sup> たり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 彼らはガリラヤの対岸、ゲラサ人の地に渡った。陸にあがられると、その町の人で、悪霊につかれて長いあいだ着物も着ず、家に居つかないで墓場にばかりいた人に、出会われた。この人がイエスを見て叫び出し、みまえにひれ伏して大声で言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。お願いします、わたしを苦しめないでください」。それは、イエスが汚れた霊に、その人から出て行け、とお命じになったからである。というのは、悪霊が何度も彼をひき捕えたので、彼は鎖と足かせとでつながれて看視されていたが、それを断ち切っては悪霊によって荒野へ追いやられていたのである。イエスは彼に「なんという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言

います」と答えた。彼の中にたくさんの悪霊がはいり込んでいたからである。悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようと、イエスに願いつづけた。ところが、その山べにおびたしい豚の群れが飼ってあったので、その豚の中へはいることを許していただきたいと、悪霊どもが願い出た。イエスはそれをお許しになった。そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、しきりに願ったが、イエスはこう言って彼をお帰しになった。「家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。

\*\*\*\*\*

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
 主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。  
 爾 歸

※ 聖体礼儀③（金ロイオアン）へ